

＜報告＞元 Happy Girls Home (子どもの家・孤児院) の子どもたちの状況

2018年1月3日～10日にネパールへ行き、5～7日にシンドゥリで元子どもの家の子ども達に会ってきました。保護者とも面談し、学校の成績表も受け取って、TIFAからの支援金(里親の方々からの会費を含む)を手渡しました。英語教師で子どもの家の運営委員でもあったドル先生が現在、子ども達全員を見守ってくださっています。以下、年長の子どもから順に現況を報告します。(筒井百合子)



*Jさん(17歳 2017年4月に卒業)

ナースを目指して猛勉強し、看護学校に入学。1月7日、里親の井上さんと共にシンドゥリから車で6時間のチャリコットでジュナを訪ねた。ヒマラヤの景色が美しい町。暖房もない所で、毎日14時間勉強している。3年間の学費・生活費は里親さんと現地の人からご支援いただく予定。

*Aさん(17歳 10年生)

実家では勉強できる環境にないため、昨年5月からシンドゥリのドル先生宅に下宿中。(毎朝5時に家を出て学校へ) 今までの里親の方がご体調不良で支援をストップされたため、2017年度から新しい支援者に引き継いでいる。本人、先生、保護者とも話し、今春JTA(農業指導員)コースへの進学を支援する方向で検討中。

*Pさん(15歳 10年生)

故郷に戻り、きょうだい5人で暮らしている。(16歳の姉、13,10歳の妹、8歳の弟)。親戚や村の人たちが学費、食物、衣類などサポートして支えているが、5人を養っていくのは難しい。彼女だけでも、少しでも支援を続けてほしいと頼まれたが、今のところ新たな支援者は見つかっていない。(この3月でTIFAからの支援は終了)

*SIさん(15歳 9年生)

義母の家庭で、姉と一緒に暮らしている。元気なときは通学しているが、時々高熱を出し、倒れるとのこと。病院で何回か検査したが、原因不明。義母と姉が見守ってくれており、さしあたって心配はないと思われる。

*SUさん(14歳 8年生)

伯父さん家族と同居。(弟と妹は別々の養護施設にあずけられている) 登校前と帰宅後、かなり働かされている様子。保護者にスニタを養う余裕がないため、1月よりドル先生宅に下宿させることになった。成績は良い。

*SOさん(15歳 9年生)

昨春まで世話をしてくれていた養母さん宅に居られなくなり、行き先が無くなったため、ドル先生宅に身を寄せている。勉強より運動が得意。卒業後、軍への入隊を希望しており、訪問時はそのトレーニングで不在だった。

*SAさん(15歳 7年生)

里親さんの全面的な支援を受けて、カトマンズの私立学校の寄宿舎で暮らしている。学業は今ひとつだが、絵を描くのは得意。(GHGでミティーラ絵を習った効果?) 卒業後、美容師として独り立ちさせる予定。



保護者との面談風景



6, 7歳のときから「子どもの家」でTIFAの支援を受けて育ってきた子どもたちです。支援は原則として10年生までのため、このプログラムもあと2年ほどで終わります。親のいない彼女たちが貧困の連鎖から抜け出すための一歩を踏み出せるよう、職業訓練などへのご支援をよろしくお願いいたします!